

【國立台灣大學文學院 101 年跨國界的文化傳釋計畫】

學術交流演講 (二)

語彙および語彙論の理論 的基盤について

授課老師：齋藤倫明 教授（日本國立東北大學）

授課時間：2012 年11 月20 日（二）上午8:10~12:10

授課地點：校史館二樓會議室

主辦單位：台灣大學日本語文學系

講演者：斎藤倫明 教授

【略歴】

1977年3月 東北大学文学部（国語学専攻）卒業
1977年4月 東北大学大学院文学研究科博士課程前期2年の課程（国文学国語学日本思想史学専攻）入学
1979年3月 同 課程修了
1979年4月 東北大学大学院文学研究科博士課程後期3年の課程（国文学国語学日本思想史学専攻）進学
1981年3月 同 課程退学
1981年4月 神戸山手女子短期大学国文学科専任講師
1985年3月 同 退職
1985年4月 宮城教育大学教育学部専任講師
1987年8月 同 助教授
1992年4月 東北大学文学部助教授
1997年2月 博士（文学）学位取得（東北大学）
1998年4月 東北大学文学部教授
2000年4月 東北大学大学院文学研究科教授（日本語学講座）
現在に至る

【主要著書】

- ・語彙論的語構成論 [ひつじ書房、(2004)] 斎藤倫明
- ・現代日本語の語構成論的研究-語における形と意味- [(1992)] 斎藤倫明
- ・これからの語彙論 [ひつじ書房、(2011)] 斎藤倫明・石井正彦
- ・朝倉日本語講座4 語彙・意味 [朝倉書店、(2002)] 斎藤倫明
- ・日本語研究資料集 1-13 語構成.[ひつじ書房、(1997)] 斎藤倫明 石井正彦

【主要論文】

- ・語彙史としての語構成. [シリーズ日本語史2 語彙史 (岩波書店), (2009)、35-72]・
- ・語形成と選択制限-文法と語彙の間-. [日本語文法、5(1)、(2005)、121-137]
- ・書評 由本陽子著『複合動詞・派生動詞の意味と統語-モジュール形態論から見た日英語の動詞形成-』.[日本語の研究、3(2)、(2007)、61-67]
- ・書評 小林英樹著『現代日本語の漢語動名詞の研究』.[日本語文法、6(2)、(2006)、144-152]
- ・語構成論から見た語「追う」の意味形成-語彙論的な語構成論の発展のために- [国語学 53(1)、(2002)、56-69]

【要旨】

言語を構成する一部分としての語彙、およびそれを扱う言語学（日本語学）の一分野である語彙論の成立基盤について、あらためて理論的な観点から種々検討を加えた。

具体的には、まず最初に、語彙・語彙論とは何か、という問題を取り上げ、語と語彙とは何が違うのか、および、語彙の元は何かという点について論じた。そこでは、語彙の集合としての性格が重要であることを確認するとともに、語彙の元として、新たに「語彙素」（lexeme）という概念を導入し、その性格と特質を明らかにした。その際、慣用句との関わりについても考察した。また語彙論については、言語研究における位置づけ、および語彙論の下位区分、語彙論に課された課題等について述べた。次に、語彙には量的な側面と質的な側面との二面性が存在することを指摘し、特に後者について、語彙の重要な特質の

一つである体系性という問題を取り上げ論じた。具体的には、「体系」と「分類」の相違、意味の体系を扱ったシソーラスの特質と問題点を明らかにするとともに、従来、あまり取り上げられることのなかった語形における体系性の成立可能性を探った。最後に、意味の体系・形の体系と語彙の体系との関わりを取り上げ、語彙論の課題と絡めつつ全体の結論を提示した。